

# 雲取山山行記録

記 鳥切昇治

日 時:2014年10月28日(火)~29日(水)

コ ー ス:三峰登山口―霧藻ガ峰―白岩山―雲取山荘―雲取山(2017m)―七ツ石山―(石尾根)―鷹ノ巣山―奥多摩駅

メンバー:鳥切昇治単独



日の出を迎えた雲取山(2017m)山頂

10月28日(火) 天候:快晴 自宅～(電車・バス)～三峰登山口～雲取山荘

東京都にある雲取山に登るのに、調べてみると自宅から登山口までのアクセスに意外と時間がかかる。迷った末、埼玉県側の三峰口から登ることにした。

池袋まで湘南新宿ラインは通勤時間帯で混雑していた。普段、西武池袋線を利用しないので不安があったが秩父まで予定通りに着いた。西武の特急の車内はユツタリしていて1時間半も乗るので、朝食やコース調べに良い。秩父鉄道の御花畑駅まで歩く。2両しかない電車で三峰口まで乗る。

駅前のバス停で三峰山ロープウェイ乗場の大輪に行くバス時刻を調べたら大輪を通過して三峯神社まで行くバスがある。丁度良くバスが来たので三峯神社まで乗車することにした。ところが三峯神社まで行くのに、秩父湖折り返しで1時間20分もかかってしまった。予定を1時間もオーバーしている。雲取山荘に宿泊予約の電話を掛けようとしたら電波が弱く携帯が繋がらない。遅く着いて叱られるのを覚悟して出発する。



三峯神社駐車場(1100m)

過、地蔵峠まで1ピッチで歩く。道は良く、空気がヒンヤリしていて歩き易い。霧藻ヶ峰(1523m)まで結構

駐車場(1100m)周囲のモミジが紅葉していて快晴の空に映えている。登山道に入ると杉・檜林の中を緩やかに登って行く。炭焼窯跡がある炭焼平を通



地蔵峠



霧藻ヶ峰(1523m)休憩所前

ず、マナーが良いとは言えない。白岩小屋の前に出た。白岩小屋は廃屋になっている。トイレと前のベンチは使える。ここに着くまで、雲取山荘に到着

登って来た。休憩所は閉っていた。ここから少し下ると紅葉が綺麗な林を抜け、明るいお清平のコルに着く。葉を落とした広葉樹林の中を登る。前白岩山を通過した所で20名程のパーティが来たので脇によけ通過を待つ。数人と思っていたら間隔が空いた長い列で、ツアーの人達の様だ。後ろの方は挨拶もせ



白岩小屋(1760m)



大ダワ(1700m)から男坂を登る

する時間が読めなかったが、15時には着きそうだと分りホッとし、ベンチで昼食にする。

白岩山へ針葉樹林のきつい登りだが大休止の後なのできつさを感じないで登る。白岩山のピークは標識が無かったので気付かずに(ベンチと動物の説明書きがあった所?)通過し、下りに入って芋ノ木ドッケの標識で気付く。右側の山腹を捲いて再び稜線

を歩く。

コルになっている大ダワに着いた。日原に下る道の標識や他の標識が沢山ある。雲取山荘まであと一息。男坂を登る。廃屋の山小屋の所に出た。雲取ヒュッテの様だ。

3時前に雲取山荘に到着した。10km余りを4時間で歩いて来たことになる。汗も余りかかず疲労も感じず、快適な山歩きだった。宿泊手続きをするとき、予約をしてないことで嫌みを言われた。予約出来なかった理由はともかく、仕方がないので謝った。遅く着いたらどうなったかと思うと恐ろしくなった。

部屋は相部屋(3人で泊った)で、炬燵に火が入っていて、夕食の6時まで暖かく過ごす。この日の宿泊者は30名程いた。相部屋の一人が4時頃入って来て奥多摩駅から石尾根を登って来たと言う。時間を聞くと雲取山まで6時間弱だったと言う。恐ろしく早いペースだが、捲き道があり楽だったと言う。地図で下りの時間を調べてみると雲取山から奥多摩駅まで下りで7時間以上かかる。明日、鴨沢に下山する予定だが、天気が良さそうなので石尾根を下っても良いかな、と考える。今日の調子から見て鴨沢では早過ぎてしまう。

雲取山荘はトイレと手洗いの水場は外にある。夕食後、水場に行くと流しに氷が張っていた。日原方面が明るかったが空は星が出ていて明日の天気を約束してくれている様だ。

コースタイム

(往路)自宅 5:38—大船 6:10—7:03 池袋・西武池袋 7:30—(特)—8:58 西武秩父—御花畑 9:10—(秩父鉄道)—9:30 三峰口 9:35—(バス)—10:46 三峯神社

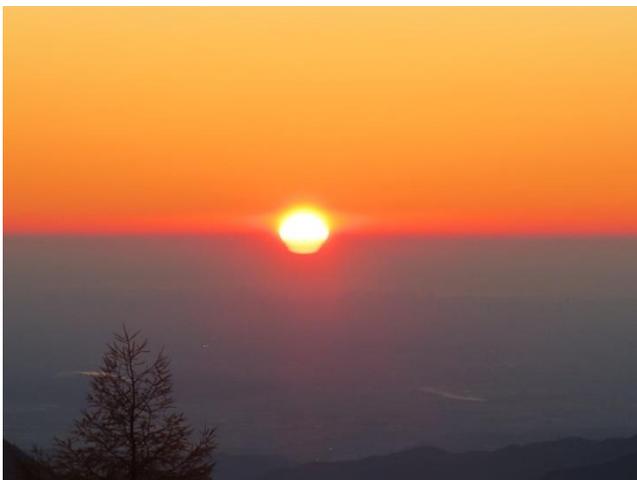
三峯神社駐車場 10:53—炭焼平 11:37—11:59 地蔵峠 12:03—霧藻ヶ峰(休憩所) 12:10—お清平 12:20—13:01 前白岩山—13:18 白岩小屋(廃屋) 13:40—白岩山 14:00—14:05 芋ノ木ドッカー—14:37 大ダワ—14:58 雲取山荘(泊) (標高:1850m)

10月29日(水) 天候:快晴 雲取山荘—雲取山～(石尾根)～奥多摩駅～自宅

5時朝食、5時半に雲取山荘を出発。東の空の水平線が朱に染まっている。着込んで来たので寒さを感じない。針葉樹林の登りだがキャップライトが要らない位で、日の出前に雲取山(2017m)山頂に着いた。



3時前に雲取山荘(1820m)に到着



雲取山山頂の日の出



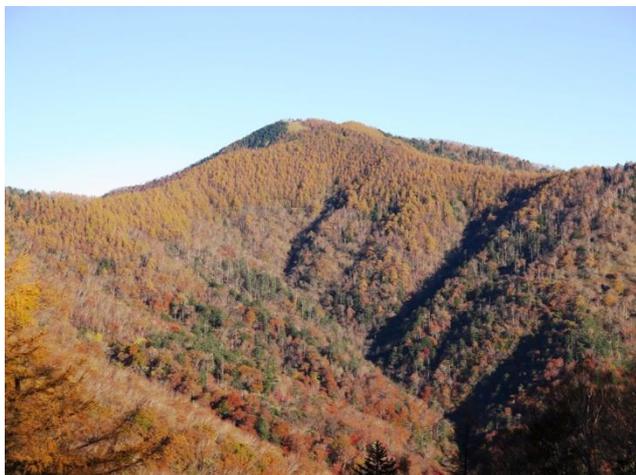
雲取山山頂から朝焼けの富士山

冠雪した富士山がクッキリ見える。雲の上に真っ赤な太陽が出て来た。素晴らしい日の出にしばし見とれる。写真を撮ってから下山に入る。山頂から少し下るとログハウスの立派な避難小屋がある。ここからの富士山の眺めは素晴らしい。富士山を右手に見ながら広い稜線を下る。唐松の黄葉がきれい。所々長い霜柱があつて踏むとサクサクと良い音がする。雲取山をバイパスする捲き道があり、この道は雲取山荘の傍に出る。雲取奥多摩小屋前の温度計を見たら8度だった。

ブナ坂まで来て、鴨沢に下る予定を変更し石尾根を奥多摩駅まで下ることにして七ツ石山へ登る。七ツ石山



唐松の黄葉と富士山



七ツ石山(1757m)から雲取山

石尾根筋の右側の捲き道に入る。良い道で右手に富士山の眺め、唐松の黄葉、モミジの紅葉が実に良い。落葉が敷かれた道を快適に歩く。鷹ノ巣避難小屋を過ぎる辺りから登って来る単独の登山者に会う様になる。

山頂からは唐松が邪魔して、富士山は見え難いが雲取山の眺めは良い。少し下ると両脇に石灯籠がある祠があつた。地図に七ツ石神社とあつた。直ぐ下に斧手石があつて、脇に元治元年(1864)の謂れが書かれた斧手石記が置かれてあつた。



元治元年(1864)の謂れが書かれた斧手石記



鷹ノ巣避難小屋



落葉が敷き詰められた石尾根縦走路

標識で鷹ノ巣山を通過したのを知る。尾根筋に出てしばらく歩く。単独の女性が大きなザックを背負い登って来た。快調に登って行く姿に見とれてしまった。やはり捲き道の方が歩き易いので、再び捲き道に入る。



見事な紅葉に足が停まる



快適な石尾根縦走路

捲き道は、標識はあるが目印となる場所の表示が無いので、どの辺りを歩いているのか分かり難い。単独で奥多摩駅から登って来たと言う別の女性に時間を聞いてみたら、奥多摩駅を8時に出たと言う。時計を見ると10時を少し回ったところだ。どうやら12時前に奥多摩駅に着きそうだと分る。六ツ石山の山腹を歩いている時、突然ガサガサという音がしたので熊かと身構えたら、猿の一群が斜面を一目散に駆け下りて行く。少し行くともう一群が斜面を駆け下りて行った。鈴を鳴らして歩いていたので反応した様だ。脅かされた。杉・檜林を下って行くと登山口の林道に出た。長い縦走路だったが石尾根を下って来て良かった。



登山口の林道に出た

舗装された林道を下って駅に向う。ショートカットの道に入るが、歩いて来た石尾根の登山道より悪く、急で閉口する。羽黒神社参道の石段を下り、ショートカットの道を下って公道に出た。左手の橋を渡って信号を左に折れて行くと奥多摩駅が右手に見えた。



奥多摩駅前

電車は発車したばかりで、駅員に帰路の経路を尋ねたら親切に紙に書いて教えてくれた。有難い。

新宿まで出て、湘南新宿ラインで帰って来た。

コースタイム

雲取山荘 5:30—5:55 雲取山 6:10—7:00 ブナ坂—7:14 七ツ石山 7:20—8:25 鷹ノ巣避難小屋—9:49 六ツ石山分岐—三ノ木戸分岐 10:17—11:07 登山口の林道—11:38 奥多摩駅

(復路) 奥多摩駅 12:07—12:42 青梅 12:57—13:45 新宿 14:00—14:44 大船 14:51—14:55 本郷台

以上